



FUJI WOMEN'S UNIVERSITY

No.70-71

Dec.20, 2020

藤

藤女子大学
広 報



(中)後期授業開始時の新生へへの学長挨拶

CONTENTS

- 【特集】 コロナ禍でも学びを止めない
～藤女子大学の非対面授業～／ 4
- 新生へのエール／ 8
- 私のカレッジライフ～コロナ禍での学び編～／ 16
- 殉教者聖ゲオルギオのフランシスコ修道会来日100周年／ 19

※本誌の掲載内容は10月末時点のものです。

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、11月19日から非対面授業に移行しております。

巻頭 言



異例な年

学長 ハンス ユーゲン・マルクス



今年にはコロナ禍で6月の広報『藤』の発行を見送り、第70・71合併号で発行することになったことから明らかなおとおり、あらゆる場面で異例の年を過ごしてまいりました。昨年度末に同年度の学位記授与式と新年度の入学式の中止と共に授業開始の延期を決断した時には、まさか普通の対面授業の再開まで、花川キャンパスでは9月28日、北16条キャンパスでは10月2日まで待たなければならない、とは思っていませんでした。

大型連休が明けてからもすぐには対面授業に戻れないことが分かった時、非対面授業への転換を決定し、出席をできるだけ容易にするため連休中にも教職員は出勤し、深夜まで工夫を凝らしていました。さらに環境を整え、安心して学生が非対面授業を受け入れられるように、教職員と卒業生からの寄付を財源に特別な給付奨学金制度を増設しました。

非対面授業期間は、隔週で学長からのメッセージをHPに掲載し、主として学生を相手に、日ごろの話題について、自分の思いを伝えました。『つながり』を題に選んだのは、人と人との間の身体的・物理的な距離を守る必要がある時にこそ、心理衛生のためにも、心と心の触れ合いがはなはだ大事だ、と訴えるためでした。

非対面授業が続く夏でも教職員は一丸となって、秋から再び対面授業ができるよう、細心の注意を払って準備してきました。おかげで、対面授業が両キャンパスにおいて予定通りに再開し、無事に進行しています。1年生にはまだお目にかかる機会がなかったので、各学科の授業の初回に顔を出して、歓迎と激励の言葉を申し上げました。総じて、コロナ禍への取り組みで、教職員の企画力や行動力にすっ

かり感心させられたと同時に、本学の将来をめぐって安心が一層深まった次第です。

コロナ禍がもたらしたもう一つの奨励は、女性の指導力に対する評価の目覚ましい上申でしょう。5月上旬、ニューヨーク・タイムズの国際版の社説に「危機の際に真のリーダーが際立つ」という見出しが付いていて、今回の危機で特筆に値する取り組みをした国の首脳10名が紹介されましたが、7名が女性でした。真っ先に紹介されたのは、2017年10月、37歳でニュージーランドの首相に就任すると同時に、第一子の妊娠を知らされたジャシンダ・アーダーンさんでした。就任5か月後、モスクでの礼拝中に51名が1人の白人優越主義者から射殺されたことを受けて、ベールをかぶっていた首相がモスクの礼拝に参列したことは、危機の際に攻勢を発信せず、社会的不安にも譲らず、リーダーシップを発揮することが可能だ、というメッセージになった、と評価されていました。

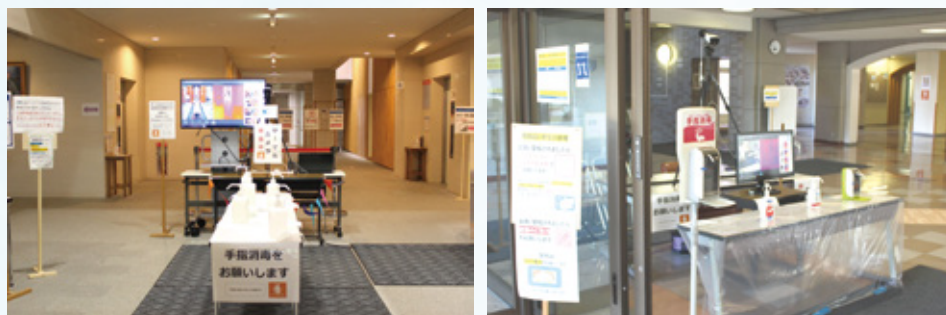
2週間後、やはりニューヨーク・タイムズの国際版に「なぜ女性に司られる諸国はよりうまくやっていけるか」と題して、アーダーン首相を初め、感染対策に成功している4名の女性首脳を紹介したうえで、種々多様な起源の情報を熟すことを怠り、意思決定をインナ・サイクルに限定しがちな英米首脳に厳しい論評を加えました。

今回の危機から明らかなおとおり、人間の生活基盤をきちんと把握しようとはせず、生産性と効率・利益優先の男性主導社会はいずれいつか行き詰まるでしょう。将来にわたって持続可能な社会を目指すなら、一刻も早く社会の仕組みをジェンダー平等に切り替える以外の道はないでしょう。

新型コロナウイルスに対する 本学の感染拡大防止対策

後期から開始された対面授業に備えて、危機対策本部や職員によるコロナ感染防止対策チームが中心となって、全学的に感染拡大防止対策をおこなっています。

両キャンパスの玄関入口にはサーマルカメラを設置し入校者の検温を徹底、マスクを外すことの多い食堂では飛沫防止のためにパネルを教職員で作成して全席に設置するなど、感染拡大防止対策を講じています。



両キャンパスの玄関入口に設置された消毒液とサーマルカメラ



飛沫防止のビニールシートを設置した窓口



使用禁止の席を設け座席間隔を空けた教室



密を避ける措置を施したエレベーターや廊下



飛沫防止パネルを設置したラウンジ



飛沫防止パネルを設置し座席番号を付した食堂



着席した座席の座席番号を体調管理表の行動記録欄に記入するよう全学生に指導しています。



学生が安心してキャンパスライフを送れるよう、今後も対策を徹底していきます。

特集

☆☆☆
コロナ禍でも学びを止めない

藤女子大学の 非対面授業



危機対策本部 副本部長 池田 隆幸

今回の新型コロナウイルス感染症に対して、今年2月、本学ではいち早く危機対策本部を立ち上げ、多くの情報を収集・解析しながら、本学に相応しいと判断した種々の対応を行ってまいりました。もちろん喫緊かつ最重要課題は、学生の安全確保と4月からの新学期の授業をどうするかでした。非対面授業という言葉が行き交う中、教職員間で情報の共有化を進めながら、未来共創ビジョンに掲げるとおり藤女子大学教職員・学生・卒業生が協力し未経験の非対面授業へ取り組みました。また、非対面授業等の受講環境整備のために、全学部生に対して5万円を上限とした「学習環境整備金」の給付を行いました。その結果、問題は山積みではあったものの5月7日から非対面授業を両学部で一斉に開始することができ、8月末無事前期授業を終えることができました。また、感染対策を十分施し9月28日から人間生活学部が、10月2日からは文学部が通常通りの対面を主として後期授業を開始することができました。まだまだコロナの危機は収まっておりませんが、ここで一旦前期を振り返り、困難を乗り越えた教員・職員・学生の取り組みについてご紹介したいと思います。

授業アンケートから見える「オンライン授業」の課題と将来性

FD委員会 委員長 伊井 義人

2020年4月の段階では、誰もが、本学でオンライン授業がここまで普及するとは予想もしていなかったのではないでしょうか。一時期の困難な状況乗り越え、学生も教員も少しだけオンライン授業に慣れてきた6月中旬に「非対面型授業に関するアンケート」を、さらに前期授業の8月の最終週には「授業アンケート」を実施することとなりました。これらはいずれも、授業の全体像を把握することを目的として実施されました。

この2回のアンケートを通して、非対面（オンライン）型授業について、現実に直面する良い機会となったことは間違いありません。ここでは、アンケートを通して明らかになったオンライン授業の側面を、課題と将来性の両面から述べさせていただきます。

6月調査時には42.6%の学生が授業に満足だと回答し、その後、8月には若干ではありますが45.5%にその満足度が上昇したことを最初に指摘したいと思います。これはオンライン授業に慣れない中でも、授業の質の改善に取り組んだすべての教職員の協力の成果だと考えています。

一方で、オンライン授業の課題も散見されました。その代表例は、授業内で提示される課題量に関してです。6月には約7割の学生が「授業内で提示課題が多い」と回答していました。その後、教務部より全教員に

対して課題量の調整依頼が配信されましたが、8月の調査結果でも、その状況は変化しませんでした。1年生だけではなく、それ以前の通常の授業の課題量と比較した学生たちの違和感が根底にあると考えられます。事前事後学修を含めた、今後の授業を考える上で、一石を投じる結果といえるでしょう。

オンライン授業には、リアルタイム型、オンデマンド型の授業があります。その形態ごとに、8月調査では設問を設けました。両形態の共通点としては、授業の満足度同様、4～5割の学生が「授業内容の理解度が高まった」としています。一方でリアルタイム型授業の方が、「ネット環境や技術的な問題があった」と3割の学生が回答していました。他方、授業内での学生同士での意見交流はリアルタイム型では4割以上の学生が「適切に設けられていた」と肯定的に評価しています。

2回のアンケートを通じて、非対面・対面にかかわらず授業実施に関連して、学生からの回答には重要な指摘もありました。今後の状況にもよりますが、将来的には対面と非対面型授業の融合が一層求められるでしょう。学生と教職員がともに、より質の高い授業を追求するための方向性を全学FD委員会も示していきたいと考えています。

語句解説

- ◆リアルタイム授業
Zoomなどを用いて映像や音声等を同時双方向でやり取りする授業
- ◆オンデマンド授業
LMSなどで授業資料と課題を配信する授業

- ◆Zoom
インターネットを利用した同時双方向の遠隔会議システム
- ◆LMS（ラーニングマネジメントシステム）『Glexa（グレクサ）』
本学で5月に導入された授業支援システム

この春、本学でも全面的な「非対面授業」への移行を余儀なくされました。ほんの2ヶ月で本学の教育環境は一変しました。本学の学びを止めないために、本学FD委員会として注力したことを元に2020年度前期を振り返ります。

上で「オンライン授業」と言わなかったのは、インターネットを介して授業をデジタル化することが目的でなく、コロナ禍前の対面授業を教員と学生の双方の努力で「非対面」化し、この緊急事態を乗り越えようという想いからでした。オンライン教育は、コロナ禍に於いては手段であり目標ではないのです。結果として、インターネットを利用した教育活動を多くの教員の努力で継続できたのは事実ですが、それが目的だったわけではなく、本学の学びを止めないための必要条件を整備することが我々FD委員会の命題でした。

したがって、技術誘導型のオンラインツールを導入することよりも、達成されるべき目標と教員の意向を反映させることを優先し、利用可能なメディアを通じて学生とコミュニケーションを取りながら授業を進めました。よって既存の通信メディア（郵便など）を利用した授業も許容しつつ、授業の非対面化を目指しました。同時に3月の時点では未整備だったオンラインツールの必要性をお伝えしたところ、オンラインで学習を一元的に管理できるLMSシステム（Glexa）と、今では学内の会議や情報交換に頻繁に利用されるオンライン会議システム（Zoom）の導入が実現しました。これらの導入により、スマートフォンなどの情報端末を持ってさえいれば、オンラインで学びを継続できる可能性が整いました。

実際の授業実施では、学生のみなさんと藤らしい学生と教員のコミュニケーションを取り続ける方法を模索しました。学習者のみなさんの不安を払拭するよう、いつも以上に様々なチャンネルでコミュニケーションを取ることが求められました。単純にオンライン会議システムを採用したので授業が成立したのではなく、学生のみなさんの強い勉学意欲と教職員への信頼がオンライン教育の基盤であったことは言うまでもありません。今後も教職員だけでなく学習の主体である学生のみなさんの力を借りながら、本学の学びを継続することを約束いたします。

私の非対面授業

01

英語文化学科 准教授 Jeremy Redlich

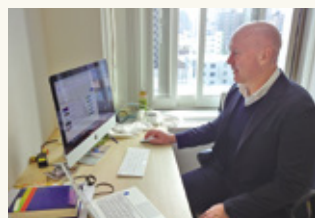
【担当科目】

Oral English / 文学・文化基礎演習 /
文学・文化演習 / 国際教養講義 / 卒業研究演習



Positive Outcomes from Online Classes

I, like many other university instructors, had never taught a class online until last semester. However, because I closely watched what was happening at Canadian and American universities, I was not actually so worried about my ability to do classes online. I saw that Zoom was working quite well in North American universities, and with a little practice I was quite confident that I could use it effectively for my classes. I was a bit worried though about how students would cope with the different online platforms they would need to use, such as Zoom, the LMS Glexa, Gmail, YouTube, etc. I found though that the LMS Glexa really helped to organize the content of my classes, such as reading, audio, video materials, and also homework assignments. Glexa also helped me to easily collect students' assignments, and then to give students feedback on their assignments. I also discovered other helpful online platforms during the semester that I used in my classes. One website, called Flipgrid, enabled me to create interesting video presentation assignments for Oral English and literature seminar courses. Another site, called StoryboardThat, enabled me to create fun and creative assignments in my literature classes. Students seemed to enjoy using these online tools because they allowed students to be creative, to practice language, and to deepen their understanding of the course content. These platforms were all very easy to use, both for me and for the students. Discovering different online tools and how to effectively use them in my classes was a very positive outcome from doing online classes last semester.



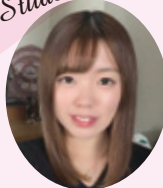
These platforms were all very easy to use, both for me and for the students. Discovering different online tools and how to effectively use them in my classes was a very positive outcome from doing online classes last semester.

多くの他大学の先生方と同様に、私は今年の前期が始まる前までオンラインで授業をしたことがありませんでした。しかし、カナダとアメリカの大学で何が起きているのかを注意深く見ていたので、



私はオンライン授業を行うことについて、実際にはそれほど心配していませんでした。Zoomは北米の大学で非常にうまく機能しており、少し練習すれば、授業で効果的に使用できる自信がありました。一方で、ZoomやGlexa(LMS)、Gmail、YouTubeなどの様々なオンラインツールの使用に対して学生がどのように対処していくのかについては少し心配に思っていました。Glexa(LMS)は、読みものや音声資料、映像資料、課題などの授業コンテンツを整理してまとめるのに非常に役立つことがわかりました。学生の課題も回収しやすく、フィードバックを提供する際にも役立ちました。また、学期中、他にも便利なオンラインツールを発見し、授業に活用しました。Flipgridというウェブサイトでは、興味深いビデオプレゼンテーションの課題を作成することができ、「Oral English」と「文学演習」で使用しました。StoryboardThatと呼ばれる別のサイトでは、楽しく創造的な課題を作成することができ、文学の授業で活用しました。創造力をもって言語を学び、授業内容の理解を深めることができるため、学生たちもこれらのツールを楽しんで使用しているようでした。これら全て、私にとっても学生にとっても、非常に使いやすいものでした。前期を通して、オンライン授業を実際に行うことで様々なオンラインツールを見つけ、クラスの中でそれらを効果的に使用する方法を発見できたことが、とても大きな成果でした。

Student



英語文化学科 2年
K.Aさん

私が履修していたRedlich先生の演習は非対面だと感じさせない充実感がありました。スライド等の資料は配布されるので授業後にも見返すことができ、自分のペースで学習出来ました。また、Storyboard Thatというシステムを使用する課題は問題を解くのではなく、自分の理解を頼りに自ら作り上げる新たな課題形式でやりがいがありました。

Student



英語文化学科 2年
W.Yさん

先生がGlexa(LMS)上に投稿してくださった解説動画を繰り返し視聴しました。ですから、英語で説明がなされる専門性の高い講義内容も、正しく理解することが出来ました。また、動画内でアカデミックな用語が実際に使われる例を学び、語彙力・英語リスニング力の向上に繋がりました。これらは非対面授業であったからこその特長です。

【担当科目】

音楽 / 器楽表現法 他



実技系のオンライン授業に関して

保育学科、子ども教育学科では、教員・保育者として必要となる技能の一つであるピアノ演奏法を学ぶ授業が複数年に渡り設定されています。授業ではマンツーマンのピアノレッスンを行っており、丁寧な指導を心がけています。

非対面授業の実施が決まった時、まず心配したことは「楽器を持っていない学生への指導をどうするか」ということでした。運良く、過去の授業で使用していたポータブルキーボードが大学にありましたので、希望者へ貸し出し、レッスンや練習に使用してもらうことにしました。

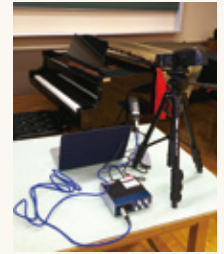
非対面によるピアノレッスンは下記の手順で、学生・教員間で撮影した演奏動画をGoogleドライブの共有機能を用いて、やり取りする形でスタートしました。

- ①学生は課題曲の演奏動画を撮影。
- ②その動画をGoogleドライブにて担当講師と共有。
- ③講師はその動画を確認し、指導内容を動画にて模範演奏とともに学生に伝える。



その後、各ピアノ講師と学生間で希望が合致すれば、ZoomやSkype、FaceTimeなどを利用したリアルタイムのオンラインレッスンへの移行も認めました。

学生一人一人へ指導のための動画を作成する作業はとて大変でしたが、まさに「学びを止めない」という気持ちで前期を乗り切ることができたと思っています。



Student

保育学科 2年
K.Mさん

オンラインでのピアノレッスンは、自分の都合の良い時間に動画を撮影することができ、授業が受けやすい環境でした。先生とのやり取りは動画を通して行っていたため、ピアノの音の聞こえ方などに差ができてしまう点では大変でしたが、自分の生活スタイルに合わせて練習をし、撮影を行うことができたため、ピアノの練習時間を多く取ることができたと感じています。

Student

保育学科 2年
K.Aさん

オンラインでピアノレッスンを受ける前は「わからないところがあったらどうしよう」と不安でしたが、質問事項などは先生からの指導動画でわかりやすく教えていただくことができました。また、自分の演奏で間違いがあった時は、的確に修正箇所を教えて下さったので曲を正確に弾けるようになりました。

【担当科目】

教育方法論 / 教師論 / 教育実習IB 他



四苦八苦のオンライン授業

PCに非常に疎い私は、今回のオンライン授業に大変苦しんだ。大学で用意して下さったZoomなどの講習会も同一内容であっても全て参加した。そうはいても、「教育方法論」は、ICT教育の内容も大事であるし、様々な非対面型の授業の方法を学生に提示するように努力した。時系列でみてみたい。



授業開始の5月は、本学ポータルサイトを利用して、教材を提示し課題を提出させる、最もオーソドックスな形だった。気を付けたのは、レジュメを「読む」教材にすることであり、「です・ます調」に書き

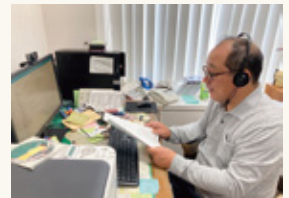
直した。課題はその回の重要な内容の復習と、時に学生の意見を書かせた（これは授業の最後まで続いた）。

6月からGlexa (LMS) を使い始めた。教材は、PowerPointを用いて絵や図表の説明をすることも行った。

Zoomを使用する際には、90分すべてを費やすのではなく、前半部分で教材を把握させ、そのうえでの説明という形にした。10分程度の動画も、5、6回ほどみせた。昔のDVDはうまく変換できず、なんとスクリーンに映してそれをカメラで録画し、さらに編集するというのもやった。私には編集が不可能なので、土、日のどちらかに娘に来てもらった（実は、上記のPowerPoint作成もほとんどは、娘による）。

成績付けは、Glexa(LMS)のクイズ機能で「確認テスト」が90%以上になることを前提に、「非対面授業の方法」というレポートを書かせた。知識理解も大事である授業だが、それには不安が残る。

どうにか前期はこのような形で乗り切ったが、充実感よりも「終わった」という安堵感の方が強い。さてさて今後はどうなるか…。



Student

日本語・日本文学科 3年
I.Rさん

講義は、オンデマンドとリアルタイムのハイブリッド型で行われました。教職課程での「知識」は採用試験に直結するので、紙媒体での試験が行われないことに不安もありました。しかし、受講毎に課される穴埋め問題と、Glexa (LMS) を用いた期末試験によって、従来以上に知識を付けることが出来たと感じています。初めての受講形態でしたが、達成感のある充実した講義でした。

Student

人間生活学科 2年
O.Yさん

「教育方法論」では教育目的を児童や生徒に効果的に伝える技術や手段、学校を取り巻く社会について学びました。また、丁寧に教えて下さるので分からない事があっても一つずつ理解を深める事が出来ます。さらに、この教科は将来教員を目指す学生が多く受講しているので気持ちを高め合いながら学ぶ事が出来ました。

FSA 誌面インタビュー

FSA (藤スチューデントアシスタント) は、学生の主体的な学びをサポートするために3年前に創設された学生組織です。主に「アイランズ」と呼ばれる北16条キャンパス新館2Fの自主学習スペースの管理・運営を行うことや、年に数回特別な学びのイベントを企画・開催しています。昨年度は、国際教育音楽祭の広報の方をお招きし、札幌が誇る音楽祭について学びを深めたり、現役の舞台俳優さんとコラボレーションを企画するなどの幅広い学びのプロジェクトに取り組みました。また、他年度には大学祭(藤陽祭)での出店や、初心者向けのパソコン講座といった大学内での学科間交流や学び合いのイベントも開催しました。私たちFSAは、アクティブな学びができる環境や、新しい学びに触れられる機会を提供するために話し合いを重ねながら、学生の皆さんがより充実した大学生活を送れるよう、これからもサポートさせていただきます!

FSAのメンバーは、非対面授業に関する学生へのアドバイスや相談などにも対応しています。

FSA・3期(4年生)に聞きました!

コロナ禍の中、FSAで良かったと感じたことは?

インターネットなどICT(情報通信技術)スキルが向上しました。基礎的なことからみんなで調べたりしたので、「知識はないけどなんとなく扱える」レベルから、「簡単でも理論がわかる」レベルになりました。

急にZoomやGlexaなどが導入され、最初は戸惑う学生が多かった中、FSAではそれ以前から使用方法を学ぶ機会があり、ミーティングのホストになって操作することもあったので、焦ることなく非対面授業を受けることができました。

FSAの活動を通してZoomなどの使用に慣れていたので、大学に行けなくても他学科や他学年の学生と交流し情報共有できたことが良かったです。

前期が非対面授業となり、いろんな情報が減って不安になりやすい状況でしたが、FSAの活動を通してお世話になっている先生や学生課職員など、何かあれば頼れる存在があり安心感がありました。

大学に行けず何もできない状況の中で、4年生として何か後輩のためにできないか考えた時に、FSAという立場があったので、それを生かして後輩にアプローチし、サポートできたことが良かったです。

就職活動で役立ったと思うことは?

FSAには違う学年の学生もいるので、どうしたら組織としてうまく活動できるかということ学ぶことができ、面接でも具体的に話すことができました。また、面接に臨む際にアピールできるものが自分にあるということが自信になりました。

FSAには、うまく時間を使って勉強とFSAの活動などをバランスよくこなすマルチタスク能力のある学生が多く、就職活動も積極的にしている人が多かったのもとても刺激になりました。メンバーから見習いたい部分を見つけ、それらを意識できたことが就職活動に役立ちました。

FSAの活動で印象に残ったことは?

座席やパソコンの貸し出し時のちょっとした会話やイベントなどを通して、他学科の学生との面識や会話の機会が増え、普段の授業だけでは味わえない経験ができたことです。

学生だけでなく先生や職員の方々と関わることも多かったため、より広い視点で物事を見られるようになったと感じたことです。

学外の劇団を招いたイベント実施の際には、どうしたら楽しいイベントにできるかギリギリまで細かい調整をするなど、メンバー各々が勉強と両立させながら本当に真剣に取り組んでいたことです。

学生が主体となり、教職員や学外の方々と一緒に仕事ができたことです。学生が主体となることで考える力が求められ、大人と関わることで良い社会経験になりました。交友関係や価値観なども広がり、人として成長できたと思います。

イベントや業務をおこなった感想は?

イベントの企画、運営は学外の方々と連携し、何度もミーティングを重ねたり、役割分担を考えたりと、手間がかかることも多く大変でしたが、その分達成感がありました。

イベント開催に向けて一から作り上げていくのは長い道のりでしたが、一人ではできないことをメンバーみんなでやり遂げていくことにとても達成感があり、良い経験ができました。

1つのイベントを実施するために、大学という組織の中ではどれだけの時間と準備が必要かを痛感しました。お互いの協力は不可欠ですし、様々な調整も大変でしたが、その分やりがいを感じられました。

普段の業務は日報を通してメンバー間で情報を共有し、常により良い業務を行うようメンバー全員が意識できていたと思います。

FSA・3期メンバー(4年生)

K.Yさん(英語文化学科)	N.Mさん(日本語・日本文学科)
M.Yさん(英語文化学科)	S.Yさん(文化総合学科)
N.Yさん(日本語・日本文学科)	M.Eさん(文化総合学科)



英語文化学科 3年
S.Rさん

現FSA・4期(3年生)の現在地

今年度我々の実質的な活動は前期中間からとなりましたが、本学キャンパスでの対面授業をほとんど経験していない1年生の相談に乗ったり、オンラインでの学習サポートを目的とした「お助けメール」を立ち上げたりと、先輩方から引き継いだピアサポート活動を中心に活動を始めました。非対面授業となった前期は悩みを抱えている学生も複数いたため、疑問や相談に対応してきました。対面授業となった後期からは「新しい生活様式」に則って試行錯誤しながら「アイランズ」での業務をおこなっています。衛生環境を整えるために、換気や衛生織物の配布など学生のみなさんの学びを止めないように頑張っています。加えて、オンライン教育システムであるGlexa(LMS)の使用法に関するサポートも進行中です。より良い学生生活のため、私たちFSAができることを考え、自律的な学びを支え、様々なサポートをしていきたいと考えています。

新入生へのエール

〈文学部〉

英語文化学科

学科主任 教授 井筒 美津子

胸躍る大学生活が待っていたはずの春は、皆さんにとってどこか味気ないものだったかもしれません。私たちもそれを心苦しく思いながら皆さんをお迎えすることになりました。授業は非対面となり友達を作る機会すら制限される中、英語文化学科ではZoomによるアドバイザーとのミーティングを行いました。1年生のみの歓談時間に賑やかに話す声を耳にし、皆さんが友人との出会いを心待ちにしていたことを実感しました。10月から対面授業が始まり、毎日マスク越しにたくさんの笑顔を目にします。半年間の逆境を経験したからこそ、大きく成長した皆さんと新しい一步を踏み出せることを嬉しく思います。半年遅れながら改めて、ご入学おめでとうございます。



英語文化学科教員

※撮影時につきマスクを外しています。



上手に息抜きをしよう

英語文化学科 4年
W.Cさん

新入生の皆さん、今年は新型コロナウイルスの影響で思ような学生生活が送れていないと思いますが、大学の授業には慣れてきたでしょうか？

皆さんには、休息をしっかりと取ることを大切にしてほしいと思います。「あれもこれもやらなきゃ」とずっと頭の中で考えながら過ごすのではなく、軽い運動や音楽を聴くなど、好きなことを合間にやると良い息抜きになると思います。

また、やりたい事が多くて、やるべき事が疎かになる時は、それが本当に自分のやりたい事なのか、現実逃避になっていないかを確認めながら、結論を急ぎすぎずに、やりたい事とやるべき事の両方のバランスをとることが良いと思います。

上手に息抜きをし、充実した学生生活が送れるよう応援しています。

日本語・日本文学科

学科主任 教授 揚妻 祐樹

学生の皆さん。入学後の半年間、さぞ忍耐を強いられる日々をお過ごしだったことと、お察し申し上げます。教室での学び、友人との語らい、他にも、本を探しに図書館で探検するとか(大学の規模の割には蔵書が充実していますのでぜひみなさん、探検してください)、学食の雰囲気とか、大学ならではの楽しみをおあずけにしまい、大学教員の一人として心苦しく思っております。後期も感染状況がどうなるか分からず、手探りの状態が続きますが、今まで味わうことができなかったキャンパスライフを楽しんでいただけるよう、サポートを心がけようと思います。宜しく願いいたします。



日本語・日本文学科教員



あなたらしい居場所で

日本語・日本文学科 4年
U.Sさん

大学生活はあっという間に過ぎていきますが、4年生の最後に「何となく終わった」と振り返らないために、充実した時間を過ごされることを願っております。

そう言いつつも、充実した時間とは何でしょうか。特にこのコロナ禍の中では、想像していた学生生活と変わってしまったところもあるでしょう。

そこでお伝えしたいのが、自分の居場所を作ることの大切さです。学内で気に入りの場所を見つけたり、話しやすい友人や先生との交流を大事にするなど、それはあなたらしいことで構いません。

この時間を、自分の価値観や大切なものが何か、学び考える時間にしていただければと思います。新しい生活スタイルの日々が続きますが、皆様ご自愛ください。

文化総合学科

学科主任 教授 野手 修

文化総合学科の1年生の皆さん。こんにちは。対面授業が始まり、いままで掴めなかった教員の人となりに触れたり、授業を他の学生と受けることで大学生活が以前より現実味をおびてきたのではないのでしょうか。冬の到来とともに予期される春の訪れを少しずつ実感できるような状況です。でも、油断は禁物です。これから先もう少しの辛抱が必要です。友達や家族の方々と励ましあい、現状を乗り越えていきましょう。文化総合学科ではこれからも皆さんの学業が円滑に進むよう努力します。我慢をお願いしなければならないことも多々ありますが、それはまた戻ってくるであろう「通常」をより意味あるものに変えるはずです。慌てず、着実に日々を過ごしてください。



文化総合学科教員

〈人間生活学部〉

人間生活学科

学科主任 教授 木脇 奈智子

1年生のみなさん、ご入学おめでとうございます。対面授業が始まり、楽しそうに話をしているみなさんを見て何よりうれしく思います。学生時代の友人は一生の宝であり、学んだことはみなさんの人としての基盤を作ってくれます。よく学びよく遊んで学生生活を満喫してください。

私は1995年に阪神淡路大震災を経験しました。今になって思うのは「シュラバをくぐってきたなあ」という実感です。明日どうなるかわからない、だからこそ悔いなく生きたい。その思いがその後の人生を拓いてきました。災害が思いがけず人生の糧になったのです。

現在の経験も、いつかみなさんの糧になることでしょう。一緒に乗り越えていきましょう。



人間生活学科教員

※撮影時につきマスクを外しています。



出会いを大切に

文化総合学科 4年
K.Aさん

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。今年は新型コロナウイルスにより前期は非対面授業となり、文化総合学科恒例の新入生交流行事が無く、お互いを知る機会が少なかったと思います。対面授業が始まり2か月以上経った今、どんな大学生活をすごしていますか？ 行動すれば、新しい出会いが待っています。私は部活を4つ兼部し、課外活動にも参加し、多くの人と出会いました。悩み、失敗もしましたが、その時に救ってくれたのは、そこで出会えた人達でした。4年生になった今、出会えてよかったと心から思える人が周りにたくさんいます。それは、あの時に自分自身が行動したからです。挑戦や失敗は怖いかもしれませんが、行動した結果が必ずかけがえのない財産となります。悔いのないように挑戦してみてください。みなさんの4年間で色鮮やかな日々になりますように。



新入生の皆さんへ

人間生活学科 3年
I.Cさん

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。藤女子大学での新たな生活環境にはもう慣れましたでしょうか？ 前期は新型コロナウイルスの影響で、リモート授業や家での課題作成など、初めての授業形態でさぞ困惑されたことと思います。友人と対面できない環境での学生生活のスタートも、不安に感じられたのではないのでしょうか。

しかし、大学が再開した今、図書館や実習室が使えるのはもちろん、友達や先生方と対面で話をすることができる環境が整いました。

高校までと違って、大学は自分が興味を持つ学問と出会い、深く学ぶことができる場です。貴重な4年間で大切に過ごし、たくさんのことを学んでください。

食物栄養学科

学科主任 教授 中河原 俊治

ようやく花川キャンパスでの大学生活が始まりましたが、すこし慣れてきた頃でしょうか？ とても不安な前期だったと思いますが、これを乗り越えてきたことはきっと今後の糧になると信じます。1、2年次は基礎的な科目が多いので気を緩めがちですが、大学の調査で1、2年の成績と国家試験合格とが強く関係していることが分かっています。つまり国家試験に余裕をもって臨むためにはじつは今のうちからきちんとと学業に取り組む習慣をつけておくことがとても大切なのです。まだいろんな不安は消えないと思いますが、担任の菊地先生をはじめ食物栄養学科教員は皆さんを応援し、しっかり支えていきます。どうぞ安心して大学生活を満喫してほしいと願っています。



食物栄養学科教員

※撮影時につきマスクを外しています。



素敵な大学生活を！

食物栄養学科 4年
N.Mさん

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。前期は非対面授業で皆さんが心待ちにしていた大学生活とは、少し違っていたかもしれませんね。後期が始まり、現在は対面授業の大学生活に慣れてきた頃でしょうか。

食物栄養学科の2年生では実験が多くなり、実験レポートに追われるかもしれませんね。また3年生になると臨地実習があり、それまで大学で学んだこと以上の学びがあると思います。そして4年生はいよいよ管理栄養士国家試験の最終準備の年です。

このように各学年でやるべきことがたくさんありますが、大学生活で得るものは大きいと思います。将来の自分の姿を想像しながら、素敵な大学生活を送るようにしてください。

子ども教育学科

学科主任 教授 吾田 富士子

今年は実習室の外のりんごが、いつもの年よりたくさん実りました。2000年、短大保育科から4年制大学の保育学科として、16条から花川キャンパスに引っ越してきた春に植樹したりんごの木です。あれから20年、北海道初の保育者養成校はその長い実績を基盤に、この春、小学校教員養成をも担う「子ども教育学科」として生まれ変わりました。皆さんは、その1期生として新たな歴史を刻み始めました。皆さん一人ひとりの歩みが、子ども教育学科の初めの一歩です。世界中のだれもが忘れ得ない年となった2020年、オンライン授業から始まった皆さんの大学生活が、子どもたちの未来を目指して、仲間と共に希望を語る、豊かな4年間となりますよう教職員一同、心から願っています。



子ども教育学科教員

※撮影時につきマスクを外しています。



多くの経験を

保育学科 4年
E.Mさん

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。今年は、新型コロナウイルスの関係で入学式ができなかったり、授業が非対面になってしまったりと不安な毎日を過ごされていたことと思います。後期になり、対面授業ができるようになりましたが、想像していた大学生活とは違っている人も多いと思います。私は、そのような状況下においてもできる限り学生生活の中で様々な経験をすべきだと考えます。

私は医療保育士研修会や市内のボランティアなどの様々な経験を通して自分の夢や保育観を見つけることができました。そのほかにもサークルやアルバイト、趣味なども貴重な経験になると思います。

充実した大学生活を送ることができるよう祈っています。

〈大学院〉

人間生活学研究科

人間生活学専攻主任 教授 田中 宏実

新入生の皆さま、ご入学おめでとうございます。夢見ている新たな生活のスタートとは違う形での始まりとなりましたが、現在、担当教員と院生の努力で順調に授業が進んでいると聞いています。大学院は学部とは違い、自分で考えて学びを深めていくところです。自由な分、自分自身の努力がより一層必要となります。大学は皆さんの自由な学びを全力で応援していきます。ぜひ大いに活用しながら充実した学生生活を過ごしてください。

食物栄養学専攻主任 教授 小山田 正人

環境変化が生物の進化を引き起こすように、新型コロナウイルスの流行は、藤の大学院教育に進化をもたらしました。ネットによる遠隔授業は、道内のどこからでも大学院を履修できる可能性を広げ、道外の非常勤講師、田中清教授(神戸学院大学)、松本恵教授(日本大学)には、社会人大学院生と日程を調整しながら、遠隔授業を実施いただきました。大学での実験等と遠隔授業の融合により、大学院教育をより充実させたいと思います。



新入生のみなさんへ

人間生活学専攻 2年
M.Yさん

新入生のみなさま、ご入学おめでとうございます。現在、私は、大学院長期履修3年目を迎えております。現職の高校教員を続けながら、指導教官の先生をはじめ、諸先生方に手厚くご指導をさせていただき、家庭科教育の評価にかかわる研究を続けています。大学院は、自分の価値観や視野を広げたり、自分の考え方を整理する時間を得られる場所です。一緒に様々な学びを深めていけたら幸いです。

新副学長就任ご挨拶



副学長 小川 恭子

4月より、新たな任務を命じられ、本学が歩んできた歴史の一端を担う重責を感じざるを得ません。

今年度はコロナ禍でのスタートとなり、本学も新しい教育の仕組みや大学のあり方を求められることとなりました。これまでも「教育の質的転換」や「少子化」を背景とした「選ばれる大学」の在りようが模索されてきましたが、さらに新たな視点が付与された大学教育のあり方が改めて問われています。その基盤作りに向けて本学が長年培ってきた伝統を積み重ねつつ、踏み固めながら進む「けもの道」がいずれは新しい「路」となるように、社会に求められる大学としてあり続けるよう微力ながら努力する所存です。今後ともご指導のほど宜しくお願い致します。

新任教職員紹介

文学部 日本語・日本文学科
講師 山吉 裕子

[専門分野] 新約聖書学

[好きな言葉] わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ。(『コリントの信徒への手紙Ⅱ』12章9節)



人間生活学部 食物栄養学科
助手 石岡 滯

[専門分野]
臨床栄養学
[好きな言葉]
大器晩成



人間生活学部 子ども教育学科
教授 庄井 良信

[専門分野]
臨床教育学
[好きな言葉]
後ずさりしつつ未来へ歩む



事務局 キャリア支援課
村田 ゆい

[好きな言葉]
笑う門には福来る



事務局 入試課
武部 瑞穂

[好きな言葉]
思いやり



退職教職員

2020年
3月31日付

食物栄養学科 教授 松坂 裕子
(食品化学、食品加工学、食品成分分析実験)

食物栄養学科 助手 高田 紗恵子
(臨床栄養学)

食物栄養学科 教授 中川 幸恵
(臨床栄養学、臨床栄養管理論、実践臨床栄養学)

事務局長 井上 泰則
(2020年4月1日付 法人事務局長就任)

2020年
6月30日付

キャリア支援課
(花川オフィス)
袴田 徹



藤女子大学の海外・国内留学



2019年度海外留学派遣報告 ～アメリカ～



新しいアメリカ協定校 ウェスタンワシントン大学での研修について

文学部 英語文化学科 3年 T.Eさん

ウェスタンワシントン大学で過ごした2週間は、私にとって忘れられない一生の思い出になりました。まず、前半1週間は大学の留学生のためのクラスに合流して、中国人、ベトナム人、韓国人、イラン人などの学生達と一緒にspeakingやreadingなどの英語の勉強をしました。今まで日本人の学生のみで環境でしか、英語を学習しなかったのが、とても新鮮な気持ちで授業を受けることが出来ました。後半2週目はアクティビティ中心で、学校のボランティアや、企業説明会、小学校、空港、ホテル訪問などでたくさんの人達のお話を聞かせていただきました。英語の聞き取りが難しく、全ての会話の内容を把握出来た訳ではありませんでしたが、それでも日本とアメリカの教育や観光業の違いや同じ点を幾つか発見し、とても興味深い体験が出来たと思います。



一緒に参加した仲間と



ペリンハムの夕焼け

また、勉強やアクティビティだけでなく、街中や自然を楽しむドライブやスケート、映画館、ショッピングなどにも連れて行ってもらいました。特に、ペリンハムで見た夕日が海へと溶けだして、黄金色に染まる海の景色がとても美しく一番の思い出になりました。そして、研修中に出会った人達(大学の先生、学生、学外で会った人々)は個性豊かで、これがアメリカ…!と思わせてくれるようなことがたくさんあり、毎日かなり刺激的で楽しい研修でした。

たった2週間しかない短い研修でしたが、それでも他の研修に負けないくらい「濃い」経験が出来たと思います。

2020年度の海外協定校への派遣は、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、大変残念ながら中止となりました。2021年度の海外協定校留学の募集・派遣については、国際交流センターから随時お知らせしておりますので、お問い合わせください。



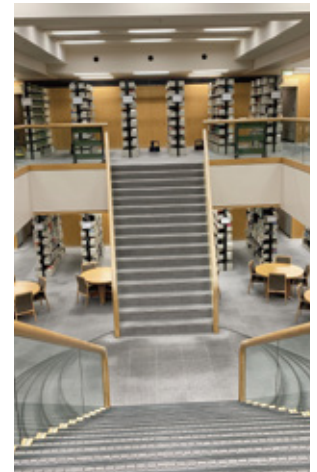
2019年度国内留学派遣報告 ～上智大学～



自分の財産となった国内留学

文学部 文化総合学科 3年 S.Sさん

私は2019年4月から一年間、上智大学文学部史学科に国内留学しました。近世におけるキリスト教布教の過程で進んだ異文化交流について歴史的観点から深く学びたいと思い、国内留学を希望し、実現しました。



上智大学の図書館

上智大学ではより専門的な講義や演習に加えて日本やアジア、アメリカやヨーロッパなど様々な地域の「横断的な内容」を含む講義があり、新たな観点から歴史をとらえることの魅力と重要性を感じました。また、関東に所在する多くの歴史的建造物や博物館、美術館に足を運び、文化財や歴史的に重要な史料を実際に目にする機会を得られたことで、より学びを深めることができました。



ゼミ旅行(出雲)

また、大学近くには大きな教会があり、教皇フランシスコが四谷キャンパスを訪れたことなどからカトリックの大学であることを強く感じられましたし、全国からの学生だけでなく、数多くの外国人学生や外国人教員とともに学び、コミュニケーションをとることで、表現方法や考え方の多様性を感じ、刺激的で充実した毎日を過ごすことができました。

国内留学では多くの出会いにも恵まれ、この機会を得られた経験は本学での研究に活かすことができるだけでなく自分の人生にとって財産となりました。

2019年度の「学生部長賞」「学生部長特別賞」が決定しました。おめでとうございます。

学生部長賞 ◆剣道部

厳しい練習に耐え北海道大会で剣道部初の優勝を果たしたことと、全国大会に出場したことが評価されました。

◆書道部

「毎日書道展」「創玄展」等名だたる展示会に挑戦し、優秀な成績を収めたことと、日々の努力が評価されました。

学生部長特別賞

◇文学部 英語文化学科 3年 北川 真帆さん

「全日本中国語スピーチコンテスト北海道大会」の「暗誦の部」で優勝し、大会の特別賞も受賞したことが評価されました。

◇文学部 英語文化学科 3年 村上 結香さん

競技舞踏部の主幹として活躍し、道内外の多数の大会に個人、団体として出場し、そのいずれにおいても優秀な成績を収めたことが評価されました。

◇人間生活学部 食物栄養学科 3年 橋場 美咲さん

北大陸上競技部に棒高跳び選手として所属しながらも、藤女子大生として北海道インカレ、北日本インカレに出場し、優勝、準優勝という優秀な結果を収めたことが評価されました。

※受賞時の学年を記載しています。

学校法人藤学園 藤女子大学 2019年度 決算諸表

2019年度 資金収支計算書 (単位：千円)

科目	大学 前年度	大学 決算額	法人 決算額
学生生徒等納付金収入	1,981,359	1,977,372	2,419,218
手数料収入	35,048	34,136	45,956
寄付金収入	15,331	23,936	81,084
補助金収入	209,252	167,568	882,237
資産売却収入	1,210,459	1,000,000	1,000,285
付随事業・収益事業収入	2,671	1,926	29,919
受取利息・配当金収入	9,001	8,780	19,672
雑収入	58,797	85,640	136,858
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	709,205	666,210	796,780
その他の収入	1,107,298	676,886	1,377,057
資金収入調整勘定	△ 747,109	△ 787,841	△ 929,059
前年度繰越支払資金	1,478,597	1,129,098	2,253,870
収入の部 合計	6,069,909	4,983,711	8,113,877
人件費支出	1,557,394	1,639,783	2,543,077
教育研究経費支出	400,241	401,514	633,614
管理経費支出	110,909	99,645	527,373
借入金等利息支出	3,643	2,841	2,841
借入金等返済支出	82,210	142,210	142,210
施設関係支出	397,349	2,860	33,054
設備関係支出	104,763	43,915	91,151
資産運用支出	2,260,028	1,567,809	2,002,487
その他の支出	51,449	68,900	88,594
資金支出調整勘定	△ 27,175	△ 25,776	△ 77,961
翌年度繰越支払資金	1,129,098	1,040,010	2,127,437
支出の部 合計	6,069,909	4,983,711	8,113,877

2019年度末 貸借対照表 (単位：千円)

科目	法人 前年度	法人 決算額
固定資産	19,654,995	16,239,201
有形固定資産	13,781,401	10,982,691
特定資産	5,820,683	5,213,774
その他の固定資産	52,911	42,736
流動資産	2,763,143	2,354,416
資産の部 合計	22,418,138	18,593,617
固定負債	1,330,750	1,235,123
流動負債	1,182,437	1,005,395
負債の部 合計	2,513,187	2,240,518
基本金	24,296,897	19,638,104
繰越収支差額	△ 4,391,946	△ 3,285,004
純資産の部合計	19,904,951	16,353,100
負債及び純資産の部 合計	22,418,138	18,593,618

藤女子大学 2019年度決算の概要

事業活動収支計算書のうち、教育活動収支の収入の部の合計は補助金収入の減少等により、前年度比5百万円減の22億89百万円となりました。支出の部の合計は24億33百万円で、前年度比81百万円増加しました。これにより、教育活動収支差額が1億44百万円の支出超過となっていますが、この主な要因は、学生現員数の減減に加え、経常費補助金が前年度比42百万円減少したこと、教員人件費・退職金及び減価償却額の増加等が挙げられます。これらの結果、基本金組入前当年度収支差額は1億35百万円の支出超過となりました。基本金については、固定資産の取得(教育研究用機器備品、管理用機器備品、図書等)及び借入金の返済等により1億71百万円を組入れています。

資金収支計算書では、北16条校舎増築及び耐震改築工事に係る借入金返済等により、翌年度繰越支払資金は89百万円減の10億40百万円となりました。

私学を取り巻く環境は一層厳しさを増していますが、経費の削減等の経営努力をしつつ、教育研究環境の更なる向上に向けたキャンパス整備や学修支援体制の充実に努めてまいります。

2020年度 入試報告

■藤女子大学総計

学部	学科	募集	出願	受験	合格	入学
文学部	英語文化学科	80	377	371	236	94
	日本語・日本文学科	80	373	370	306	119
	文化総合学科	80	376	372	222	93
	計	240	1126	1113	764	306
人間生活学部	人間生活学科	80	231	228	219	70
	食物栄養学科	80	202	195	182	76
	子ども教育学科	80	263	259	178	85
	計	240	696	682	579	231
合計		480	1822	1795	1343	537

□一般入学試験 (A日程) ※試験1日目・2日目合計 ※追加合格は含まない。

学部	学科	募集	出願	受験	合格
文学部	英語文化学科	44	239	233	128
	日本語・日本文学科	34	150	148	129
	文化総合学科	36	254	250	146
	計	114	643	631	403
人間生活学部	人間生活学科	26	82	79	73
	食物栄養学科	32	99	92	87
	子ども教育学科	38	143	139	101
	計	96	324	310	261
合計		210	967	941	664

□海外帰国生特別入学試験

学部	学科	募集	出願	受験	合格
文学部	英語文化学科	若干名	1	1	1

□一般入学試験 (B日程) ※追加合格は含まない。

学部	学科	募集	出願	受験	合格
文学部	日本語・日本文学科	10	28	27	18

□大学入試センター試験利用入学試験 (A日程)

学部	学科	募集	出願	合格
文学部	英語文化学科	5	89	56
	日本語・日本文学科	10	151	124
	文化総合学科	4	79	38
	計	19	319	218
人間生活学部	人間生活学科	12	102	99
	食物栄養学科	10	61	54
	子ども教育学科	3	77	36
	計	25	240	189
合計		44	559	407

2019年度 事業活動収支計算書 (単位：千円)

区分	科目	大学 前年度	大学 決算額	法人 決算額
教育活動収入の部	事業活動収入の部			
	学生生徒等納付金	1,981,359	1,977,372	2,419,218
	手数料	35,048	34,136	45,956
	寄付金	9,331	23,936	64,624
	経常費等補助金	206,972	166,428	856,220
	付随事業収入	2,671	1,926	29,754
	雑収入	58,798	85,640	135,941
	教育活動収入計	2,294,179	2,289,438	3,551,713
	人件費	1,555,185	1,632,186	2,535,314
	教育研究経費	665,608	676,751	1,012,474
教育活動支出の部	管理経費	130,984	124,158	568,042
	徴収不能額等	606	639	778
	教育活動支出計	2,352,383	2,433,734	4,116,608
	教育活動収支差額	△ 58,204	△ 144,296	△ 564,895
	受取利息・配当金	9,001	8,780	19,672
	その他の教育活動外収入	0	0	0
	教育活動外収入計	9,001	8,780	19,672
	借入金等利息	3,643	2,841	2,841
	その他の教育活動外支出	0	0	0
	教育活動外支出計	3,643	2,841	2,841
教育活動外収支差額	5,358	5,939	16,831	
経常収支差額	△ 52,846	△ 138,357	△ 548,064	
特別収支	事業活動収入の部			
	資産売却差額	209	0	285
	その他の特別収入	9,929	6,274	61,921
	特別収入計	10,138	6,274	62,206
	事業活動支出の部			
資産処分差額	6,279	3,757	3,063,475	
その他の特別支出	1	0	2,518	
特別支出計	6,280	3,757	3,065,993	
特別収支差額	3,858	2,517	△ 3,003,787	
基本金組入前当年度収支差額	△ 48,988	△ 135,840	△ 3,551,851	
基本金組入額 合計	△ 232,761	△ 171,035	△ 232,894	
当年度収支差額	△ 281,749	△ 306,875	△ 3,784,745	

事業活動収入計	2,313,318	2,304,492	3,633,591
事業活動支出計	2,362,306	2,440,332	7,185,442

□大学入試センター試験利用入学試験 (B日程)

学部	学科	募集	出願	受験	合格
文学部	英語文化学科	3	5		2
	日本語・日本文学科	3	14		8
	文化総合学科	4	10		7
	計	10	29		17
人間生活学部	人間生活学科	5	12		12
	食物栄養学科	2	3		3
	子ども教育学科	2	4		2
	計	9	19		17
合計		19	48		34

□公募推薦入学試験

学部	学科	募集	出願	受験	合格
文学部	英語文化学科	15	34	34	24
	日本語・日本文学科	15	28	28	25
	文化総合学科	20	26	26	24
	計	50	88	88	73
人間生活学部	人間生活学科	22	24	24	24
	食物栄養学科	20	35	35	33
	子ども教育学科	25	38	38	38
	計	67	97	97	95
合計		117	185	185	168

□その他、藤学園系高等学校との間に姉妹校推薦入学試験、カトリック協定高等学校との間にカトリック校推薦入学試験があります。

□公募推薦入学試験 (地域貢献人材育成枠)

学部	学科	募集	出願	受験	合格
人間生活学部	人間生活学科	5	4	4	4

□編入学試験(出願のあった学科のみ)

学部	学科	募集	出願	受験	合格
文学部	文化総合学科	若干名	2	2	0
人間生活学部	保育学科	若干名	1	1	0
合計			3	3	0

□大学院

研究科	専攻	募集	出願	受験	合格
人間生活学	人間生活学専攻	8	1	1	1
研究科	食物栄養学専攻	8	1	1	1
合計		16	2	2	2

2019年度 藤女子大学・大学院 進路就職状況

最新情報は本学HPに掲載いたします。【就職状況】https://www.fujijoshi.ac.jp/career/affair/a_latest/ 【就職先一覧】https://www.fujijoshi.ac.jp/career/list/l_latest/

〈大学〉

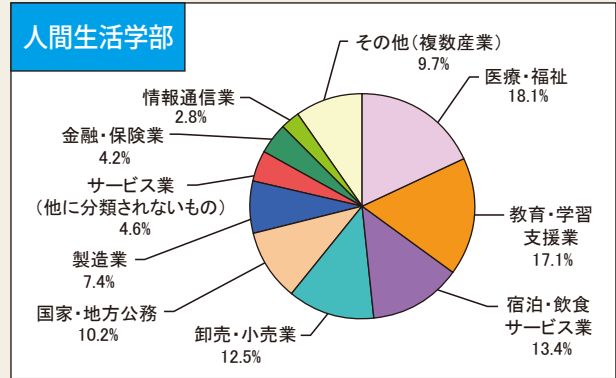
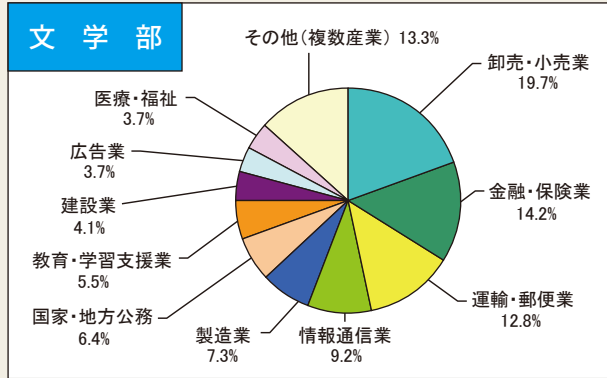
2020年10月31日現在

	卒業 者数	卒業後の進路					
		進学		就職		その他 ※2	
		希望数	決定数	希望数	決定数		就職率
文学部	83	1	0	74	70	94.6%	8
英語文化学科	83	1	0	74	70	94.6%	8
日本語・日本文学科	97	3	1	83	78	94.0%	11
文化総合学科	85	1	1	74	70	94.6%	10
学部計	265	5	2	231	218	94.4%	29
人間生活学部	63	0	0	62	56	90.3%	1
人間生活学科	63	0	0	62	56	90.3%	1
食物栄養学科	79	0	0	71	70	98.6%	8
保育学科	90	0	0	90	90	100.0%	0
学部計	232	0	0	223	216	96.9%	9
合計	497	5	2	454	434	95.6%	38

	企業等 希望数	企業等 決定数	就職先内訳					
			専門職(福祉・栄養・保育)		公務員			
			希望数	決定数	希望数	決定数		
文学部	71	67	—	—	1	1	2	2
英語文化学科	71	67	—	—	1	1	2	2
日本語・日本文学科	68	67	—	—	9	7	6	4
文化総合学科	63	61	—	—	1	1	10	8
学部計	202	195	—	—	11	9	18	14
人間生活学部	50	45	2	2	7	6	3	3
人間生活学科	50	45	2	2	7	6	3	3
食物栄養学科	30	30	39	38	0	0	2	2
保育学科	24	24	21	21	28	28	17	17
学部計	104	99	62	61	35	34	22	22
合計	306	294	62	61	46	43	40	36

※1：年度途中の卒業者を含む。 ※2：主婦・社会人入学者を含む。

〈就職先産業別比率〉



〈大学院〉

人間生活学研究科	修了者数	修了後の進路				
		進学		就職		その他
		希望数	決定数	希望数	決定数	
人間生活学専攻	2	0	0	2	2	0
食物栄養学専攻	5	0	0	5	5	0
合計	7	0	0	7	7	0

人間生活学研究科	就職先内訳							
	企業等		専門職(福祉・栄養)		教員		公務員	
	希望数	決定数	希望数	決定数	希望数	決定数	希望数	決定数
人間生活学専攻	2	2	0	0	0	0	0	0
食物栄養学専攻	2	2	2	2	1	1	0	0
合計	4	4	2	2	1	1	0	0

※社会人(職場復帰)を含む。

2019年度卒業生の就職状況は、就職希望者に占める就職者の割合が大学全体で9割を超える結果となりました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、社会に巣立つ決意を促す一助となる学位授与式の中止という苦渋の決断になりましたが、卒業生一人ひとりがそれぞれの新しいステージで活躍されることを教職員一同願っております。

新型コロナウイルスの影響は、在学生の就職活動にも表れております。学生と企業の出会いの場であった対面型の合同企業説明会が相次いで中止になり、企業研究に苦勞する学生が多く見られました。単独企業説明会や各社採用試験もオンライン(WEB)での実施に切り替わり、3年生のインターシップもオンラインでの開催が増加しています。この傾向は今後も続くとともに、採用の早期化にも繋がると予想されます。

本学では今年度前期の非対面授業期間中より、オンラインでの就職ガイダンスを開催し、電話・メール・WEBによる個別相談にも取り組んでおります。刻々と変化する動向を注視しつつ、学生への適切な情報提供や個々の不安を取り除くサポートに努めてまいります。

心よりご冥福をお祈りいたします。

元藤女子大学文学部
日本語・日本文学科 教授
小南 武朗 様



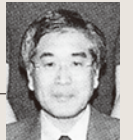
2017年7月10日ご逝去 89歳
1953年北海道放送株式会社に勤務、その後、1987年小樽女子短期大学助教授、1992年小樽女子短期大学教授、1995年小樽女子短期大学学長を経て、2001年藤女子大学文学部日本語・日本文学科特任教授として着任。2005年3月の退職まで本学の図書館情報学課程の担当教員として学生の教育にご尽力頂きました。

元藤女子短期大学
生活学科 教授
三浦 良一 様



2020年1月17日ご逝去 93歳
1955年札幌市大黒病院小児科に勤務、その後、青森県立中央病院小児科副部長、国立西札幌病院小児科医長、国立稚内療養所長、留萌市立病院副院長として勤務し、1976年藤女子短期大学教授として着任。長年に渡り、藤女子大学・藤女子短期大学の学医及び保健センター長を務められ、本学のためにご尽力頂きました。

元藤女子大学
事務局図書課 職員
大館 光男 様



2020年2月6日ご逝去 75歳
1973年藤女子短期大学図書館職員として勤務。1999年藤女子大学図書館課長補佐、2002年藤女子大学図書課長を務められ、2005年3月定年退職。

元藤女子大学
セミナーハウス 職員
菊地 忠 様



2020年7月6日ご逝去 84歳
1953年から新塾藤学園に勤務、その後、藤女子高等学校、養護老人ホーム藤の園で勤務。1984年からセミナーハウスで勤務、1992年からはセミナーハウス館長代理を務められ、1996年3月定年退職。退職後も待遇職員、臨時職員として2011年4月までセミナーハウスで勤務されました。

元藤女子短期大学
事務局会計課 職員
Sr.M. テレーゼ
小林 悦子 様



2020年9月16日ご逝去 88歳
1964年藤女子短期大学事務局会計課職員として勤務。1983年3月退職。その後、旭川、花川、札幌のマリア院で院長を務められました。

元藤女子大学 副学長・
文学部文化総合学科 教授
相原 宗一 様



2020年10月2日ご逝去 88歳
1958年北海道立札幌北高等学校に教諭として勤務。1960年藤女子短期大学講師として着任。1961年同助教授、1969年藤女子大学教授。2003年3月に定年退職。在職中は、1972年～1973年学生部副部長、1989年～1991年総務部長、1992年～1997年文学部長、1997年～2003年副学長を併任し、長年に渡り本学を支え、学生の教育にご尽力頂きました。

元藤女子短期大学
保育科 教授
沖津 圭子 様



2020年10月22日ご逝去 92歳
札幌藤幼稚園、草加藤幼稚園等で幼稚園教諭として勤務の後、1967年藤女子短期大学保育科実習助手として着任。1970年同助手、1972年同講師、1977年同助教授、1997年同教授。1999年3月に定年退職。長年に渡り、本学の保育者の養成にご尽力頂きました。

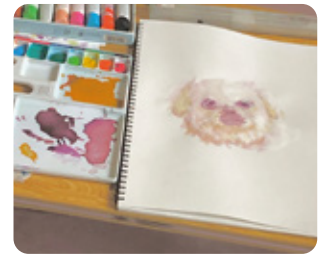
私のカレッジライフ ~コロナ禍での学び編~

遠隔授業をふりかえって



文学部
英語文化学科
2年
Y.Sさん

コロナウイルスが社会にもたらした影響は計り知れないものですが、私達大学生も前期はオンラインで授業を受けることになりました。一般的に、遠隔授業については、かなり否定的な意見が多いように感じます。確かに実習や留学など、オンライン授業では展開が難しいこともあります。一方、遠方からの授業参加や全国各地の学生との交流など、今まで出来なかったことが遠隔授業により可能になりました。また通学にかかっていた時間を読書や資格の勉強、趣味や家族との時間などに使うことも出来ました。遠隔授業という形態は、やり方次第で私たちの学びをより豊かにしてくれると思います。そして、今回の経験を通して、変えられない目の前の現状に不満を言うのではなく、未来を見据えて自分に今何が出来るかを考えて実践し続けることが大切だと学びました。

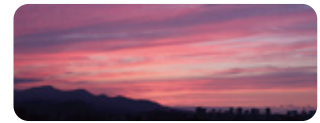
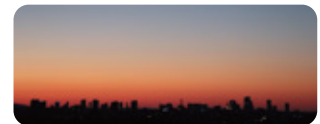


夢のおうち時間



文学部
日本語・日本文学科
3年
T.Aさん

小鳥たちの楽しげなさえずりで目が覚めました。カーテンを開け、部屋に朝日を迎え入れます。身支度を済ませてから、台所に立ち食事の準備をする母を手伝います。仕事に向かう父を見送った後は自室でオンライン授業を受けます。授業を終えてからはのびのびとしたおうち時間です。今日は部屋をきれいに片付けてから、お菓子作りを嗜もうかしら。配信サービスで映画を観るのもいいな。



唯一続いた日課、ベランダからの風景撮影

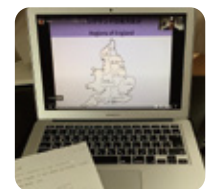
そんなことを考えているうちに目が覚めた。もうとっくに日は昇っている。このところ、夜更かしばかりしているせいで昼近くまで惰眠を貪っている。せっかくのおうち時間、有意義に過ごそうと意気込んでいたのは最初のうちだけだった。この機会に片付けようと思っていた部屋はずっと散らかったままだし、Netflixはマイリストばかりが溜まっていく。正直なところ、ここまで自分の生活が変わってしまうとは思わなかった。後期は対面授業が始まるので、乱れ切った生活リズムを少しずつ整えたいと切に願う。

オンラインの非対面授業を経験して



文学部
文化総合学科
2年
M.Kさん

コロナウイルス感染拡大の影響により、前期は全てオンラインによる非対面授業でした。初めは慣れない授業のやり方に苦戦しましたが、友だちと助け合いながら徐々に対応することができるようになっていきました。非対面授業では、小まめな連絡の取り合いが重要で、コミュニケーションの大切さを改めて感じました。また、Zoomというシステムを使ったライブ授業におけるブレイクアウトセッションでは、普段あまり関わることがない人とも話し合いをする良い機会になりましたし、移動時間がない分、休み時間を有効に使うこともできました。



一方で、友だちと学校で一緒に過ごす時間を恋しく感じたのも事実です。私にとっての「ステイホーム生活」は、何気ない日々の大切さを再確認することのできた期間でもありました。ただ、オンライン授業のお陰でリモートツールを使いこなすことができるようになりました。今では遠くにいる友だちや親戚など大事な人たちとの繋がりを大切にしています。



非対面授業を通して



人間生活学部
人間生活学科
3年
Y.Rさん

3年生になり非対面授業が始まりました。はじめの頃は先生や他の学生と言葉を交わしながら勉強できない空間にいるということに、不安になったりモチベーションがあがらなかったりしました。特に実習や実験はわからないことが多く、一人で取り組むことが辛く感じたこともありました。そのような時は先生方、友人、家族に相談に乗ってもらうことで、次に進むことができました。前期の間、人に会う機会はあまりありませんでしたが、様々な人に助けてもらいました。離れた場所においても人との繋がりを感ずることができたことは私の収穫です。また、これまでは気がつきませんでした。日常大学に通えていることの喜びや幸せを改めて感ずることができました。

後期からは対面授業が始まりましたが一部非対面の授業もあり、今までとはまた違った生活にチャレンジしています。これからの新しい生活様式に慣れながら、残りの大学生活も充実した時間になるように努力していきます。



住居デザイン演習
遠隔授業で制作したフラワーアレンジメント

コロナ禍だからこそ学べたこと



人間生活学部
食物栄養学科
3年
S.Hさん

予期せぬステイホームにより、自分の時間に余裕ができ、料理に力を入れたりハンドメイドピアスを作ったりと、特技や趣味に改めて挑戦し、技術の向上につなげることができました。その一方で学業の面では今まで経験したことのない非対面授業が始まり、最初は戸惑いを感じました。特に実践的なことを行うのは難しく、講義内容が理解できないことも多くあり、非対面授業の限界を痛感しました。また、大量調理や学外実習を例年通り行うことができなかったため将来に対する不安が募るばかりでした。そのような中で、非対面授業を経験して「非対面だからこそ経験でき学べること」を自分で考え、自分のものにしていくことで十分にスキルアップできることに気づくことができました。今後も予期しない変化への対応力が求められると思います。コロナ禍でのこれらの体験を生かして、新生活スタイルをポジティブに捉えながら今後の学生生活も精進していきたいです。



ハンドメイドピアス



非対面調理実習

留学と非対面授業を経験して



人間生活学部
保育学科
3年
T.Aさん

私は昨年9月から台湾へ長期留学をしていました。本来であれば今年6月末までの予定でしたが、コロナの影響で3月末に緊急帰国となりました。後期から藤女子大学の授業に復活する予定でしたが帰国が早まったため、急遽前期からの復活となり、前期は台湾の授業もオンラインで行っていたため、藤でのオンライン授業と並行して自宅Zoomや他ツールを利用して授業を行いました。

オンライン授業では、慣れない授業形態でひたすらパソコンに向かって座り続ける日々で疲れも多くありました。課題にも追われ、保育園実習のための準備など今までは大学で直接先生に何える事もメールやZoomを通してだと、どうしても上手くいかない事もありました。しかし、今まで誰も経験した事のない日々が当たり前になり行って来た事は今後の糧になると信じています。

これからもこのような状況は暫く続くと思いますが、授業が受けられる事に感謝し、保育について学んでいきたいと思っています。






保健センターから

新型コロナウイルス感染症の流行に明け暮れながら、慌ただしく非対面授業で始まった2020年度ですが、後期はひとりひとりの心構えがものを言い、対面授業が展開されています。しかし緊張の中の体調不安など、保健センターに相談する学生も増えています。

当たり前だったことが、わずか1年足らずで劇的に当たり前でなくなっています。以前は「友人とおしゃべりをする」、「カラオケに行く」、「映画を観に行く」などが当たり前でしたが、ストレス対処法自体の見直しも必要になっています。

ストレス=ストレス刺激×レジリエンス(しなやかな抵抗力)と表現できます。ストレス刺激を発散する新たな方法を開拓するだけでなく、ストレスに対するレジリエンスを身につけるために、心身の状態と暮らしを新たに見つめ直してみませんか。
(保健センター長 藤井 義博)

セルフチェックリスト **最近こんな症状ありませんか?**
(当てはまる人は免疫力が下がっているかも?)



なかなか眠れない いつも手足が冷えている お腹の調子がよくない
 めまいや耳鳴りがする 胸やけや胃痛がする 肩こりや頭痛がする

まずは免疫力アップ!

1 早起きをしましょう

朝日を浴びることで脳が目覚め、身体が活動モードになります。遅めに寝たとしても起きる時間は一定がおすすめ。

12月の日の出の時間は7時前後です。身体を伸ばして朝日を浴びると、1日のはじまりを心と身体で感じられます。

ちなみにワオキツネザルは、代謝が低く身体を温めるために日光浴を行います。冬場の少ない日照時間を有効に、ゆっくり日光浴もおすすめです。



2 栄養バランスのよい食事で、腸を整えましょう

甘いもの、脂っこいものが続くと血の巡りが悪くなり冷えてつながるのでほどほどに。青魚やごまなどの血行を促す食品もとりにいれて。海藻、緑黄色野菜などの食物繊維のほか、納豆、ヨーグルトなどの発酵食品も腸を整えます。冬でも水分摂取は忘れずに。温かい飲み物をお気に入りのマグボトルに入れて持ち歩くのもいいですね。



3 適度に体を動かしましょう

なるべく階段を使う、ストレッチをするなど自分なりの工夫をしましょう。肩こり、頭痛の緩和や気分転換にもなります。

おすすめはラジオ体操です。ラジオ体操第一の中に13種類の動きがあり、たった3分という短い時間の中で、全身をまんべんなく動かせるよう考えて作られています。時間がなかなか取れない現代人にはぴったりの身体活動です。



4 デジタルデトックスを心がけましょう

デジタルデトックスとは、数時間スマホを触らずインターネットを私生活から遮断することです。情報過多で常に神経が刺激されて心が休まらない人におすすめです。初めのうちは不安や焦燥感といった感情が巻き起こるかもしれませんが、情報に振り回されるストレスとも無縁の、のびのびとした時間を過ごすことができます。

スマホを置いて、好きな香りの入浴剤を入れてゆっくり入浴をする、本を読んだり、音楽を聴きながら夜を過ごしませんか? きっと睡眠の質も変わります。

相談してみませんか? ~こころとからだは表裏一体~

藤女子大学保健センターでは心身のよろず相談を受けています。

また学生相談室では週に4日、カウンセラーによる心理相談を行っております。いろいろな悩みや心配事の解決をめざして、一緒に考えていく場です。1人で悩まずに、こんなことでと思わずに、「ただ誰かに聞いてほしい」でもいいです。お待ちしております。 ※受付は保健センターへ来室、電話、または下記URLの学生相談予約フォームよりお願いします。非対面授業に移行している場合は、Zoom、電話、メールでの相談となります。

北16条キャンパス tel.011-736-5099 花川キャンパス tel.0133-74-7063
学生相談室ホームページ <https://www.fujijoshi.ac.jp/life/counseling/>

1920年～2020年

殉教者聖ゲオルギオのフランシスコ修道会来日100周年 マリア様と共に100年を感謝して

理事長 Sr.永田 淑子

1920年8月18日に、使命感に燃えて札幌の地を踏みしめた3人のシスターたちは、新しい故郷となる地に着いて、非常に喜びを感じました。慣れぬ異国の言語・文化・習慣などに直面して、心配や不安があったに違いないと思いますが、彼女たちの心を満たしていたのは、神様の愛をこの異国の人たちに伝えたいという使命感でした。

100年の歴史は、当然のことながら喜びや苦しみ、試練や達成感など、彩り豊かな年月でした。女子のための学校を開くという使命を与えられて派遣されてきた彼女たち。そのために乗り越えなければならぬ試練は山のようにでした。

日本語という難しい言語の習得。第一次世界大戦敗戦後のドイツのマルクがハイパーインフレのため、開校準備が資金難に。初代校長の思いがけない病いと死。開校7年目の校舎火災。ひたひたと寄せてくる軍国主義と戦争。キリスト教に対する偏見と弾圧。来日20年で迎えた政府の外国人排斥による責任者交代。修道服を標準服や和服に変更。戦争中に支配統治したフィリピンにシスター2人の派遣命令。1941年から終戦後までドイツの本部との連絡が途絶えたこと。等々。

これらの試練も神様と恩人たちのお陰で何とか乗り越え、終戦後は駐留軍のお陰で、キリスト教団体として種々の

恩恵もいただきました。米軍を通してアメリカのシスターたち経由で、ドイツの本部との連絡も復活。

戦後は社会の必要を見極めながら女子の高等教育を始め、北海道再建のための人材養成、さらに児童や高齢者の福祉など社会福祉も始めました。

困難の中で100年を歩み続けた先輩たち、そして協力を惜しまなかった恩人・友人の皆様にご心からお礼を申し上げます。



100周年記念誌(表紙)



来日当初のマリア院



日曜学校創始



現在のマリア院 絵: Sr.M.ロイス

広報藤では「シリーズ 藤のルーツ」として藤のあゆみを連載で紹介しております。バックナンバーは本学ホームページに掲載しております。是非併せてご覧ください。

<https://www.fujijoshi.ac.jp/guide/kouhoufuji/>

1914年にドイツを出発して日本へ向かった4人のシスターたちが、第一次世界大戦のために航行を続けることができなくなり、スエズから故国ドイツへ戻ってからも戦争は思ったより長く続き、1918年11月にやっと終結しました。1918年春からスペイン風邪のパンデミックがヨーロッパだけではなく世界中を襲い、夥しい死者を出して1920年春に収束しました。

その収束を待っていたかのように、1920年5月31日に3人のシスターたちが北ドイツ・テュイネの本部修道院を出発し、日本へ向かいました。Sr.M.カンディダ、Sr.M.ジャン・ベルヒマンス、Sr.M.クサヴェーラの3人です。フルダに立ち寄って、日本へ宣教師として派遣されるフランシスコ会のルカ・ベルニング神父様と共に、日本へ出発。ルカ神父様はテュイネの属するオスナブリュック教区の、当時のヴィルヘルム・ベルニング司教様の甥にあたる方です。

イタリアのトリエステでイタリアの汽船に乗り、長く暑い大変疲れる旅を続けて、やっと8月14日夜に船は無事に目的地の横浜港に入港しました。翌8月15日は「聖母被昇天祭」という大きな祭日で、横浜のカテドラルでミサに与り、その午後には秋田に向かう汽車の中。秋田の聖霊修道院に一泊して元気と体力をつけ、翌朝札幌へ向かって汽車と連絡船、そしてまた長い汽車の旅。やっと8月18日の朝7時半に札幌駅に無事に到着しました。

駅に出迎えてくださったのがキノルド師と数名の

神父様、そして天使院のシスター2人。ご挨拶の後、おっかなびっくりで「人力車」に乗り、北15条東1丁目にあったフランシスコ修道院の教会へ行き、ミサに与ります。その後、天使院のシスターが北17条西1丁目のこれから住む家に案内していただき、そこで6年前からこの家を守り続けてくれたおタキさんという若い女性に会いました。家の中はきれいに整理されており、西洋風に飾りつけまでしてあって感激。彼女たちは「第2の故郷」となるところに、とうとう着いたことを心から喜んで感謝しました。

いよいよこの第2の故郷で、「わたしは世の終わりまであなたたちと共にいる」と約束して下さったイエス・キリストに信頼して、苦勞の多い新しい生活が始まりました。



左からSr.M.Candida, Sr.M.Xavera, Sr.M.Jeanne Berchmans

現状と今後「信頼される藤」 広報「藤」編集委員長 副学長 池田 隆幸

まさに、世の中が変わるときにはこうやって変わるということ、身をもって体験した半年だったと思います。その激動の中、未知の新型コロナウイルス感染症に対し藤女子大学の教職員は、当然ですが学生の安全を確保すること、教育の質を確保することを最優先として対策を進めて参りました。そのため、海外留学やサークル・部活動は休止状態になりましたことは極めて残念ですが、御理解いただけたと存じます。例年であれば、この紙面の中で学生の多彩で多様な取り組みについてご紹介するため、広報「藤」は年二回発行しておりましたが、この様に学生の活動が見通せないため2020年度は年一回の発行とさせていただきます。しかし、この未曾有の難局にどのように立ち向かったかの一端をご紹介できればと思い、例年より紙面を増やしお届けいたします。後期は、本学コロナウイルス対策チームが考案した感染症対策を行いながら対面授業を開始しましたが、感染拡大のため11月19日より、一部例外科目を除き、原則非対面授業となりました。皆様の御理解・ご支援を賜れば幸いです。